

伊勢湾・三河湾における一持続的な海域環境再生に向けた市民の取組一

日本福祉大学国際学部特任教授 千頭 聡

第Ⅱ期推進プログラムにおける活動WGの検討状況

1. 伊勢湾再生における環境活動推進のための理解醸成の場づくり

①プログラムの策定

第Ⅰ期に引き続き、伊勢湾再生に関する情報発信に取り組むとともに、多様な主体が連携した伊勢湾再生を着実に進めるため、市民から見たより良い伊勢湾づくりを検討・提案できるような「理解醸成の場」づくりが重要。

基本理念 “豊饒な宝の海を取り戻す”

理想の姿

豊富で多様な生き物が息づいている
将来にわたって人々が海の恵みを享受できる

目 標

貧酸素水塊の抑制

適切な栄養塩管理等による
生物資源量の回復

沿岸及び流域の人々の
理解の醸成

シナリオ

伊勢湾再生に向けた施策や取り組み

窪地の環境改善

干潟・浅場・藻場の
保全・再生・創出

生物資源量の回復に
向けた新たな取り組み

ゴミの少ない
海の再生

水際線への
アクセスの向上

各施策を支える取り組み

伊勢湾シミュレーターの活用

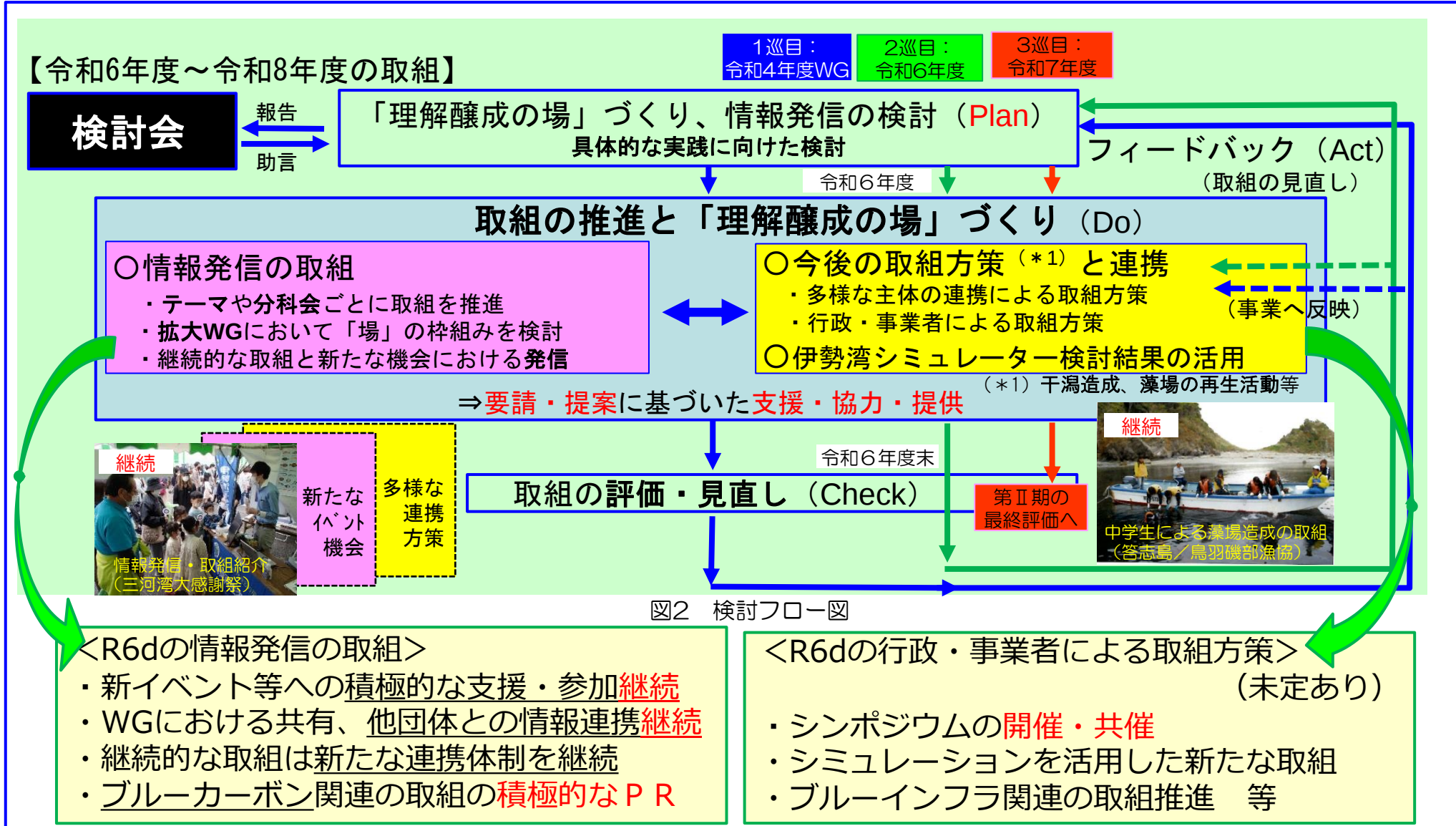
伊勢湾再生を推進するための
モニタリング

市民・企業等との協調に
向けた場づくりと情報発信

表1 伊勢湾再生海域検討会における環境活動推進の取組状況

年 度	取組内容
平成19 ～29年度	伊勢湾再生海域推進プログラム（第Ⅰ期）の策定
平成30年度	第Ⅱ期伊勢湾再生海域推進プログラム策定
令和元年度	地域協働講座やPR活動などの継続的な取組 沿岸・流域市民の理解醸成を図るための枠組 （理解醸成の場）の検討
令和2年度	地域協働講座やPR活動などの継続的な取組、 ホームページ更改
令和3年度	地域協働講座やPR活動などの継続的な取組、 今後の検討に向けた整理
令和4年度～	活動WG再開

②検討フロー図と理解醸成の場づくりに向けた試行（令和6年度）



③「理解醸成の場」の概念図

「準備会合」等における意見および今年度のヒアリング結果等を踏まえた「理解醸成の場」の概念図について、以下に案を示す。

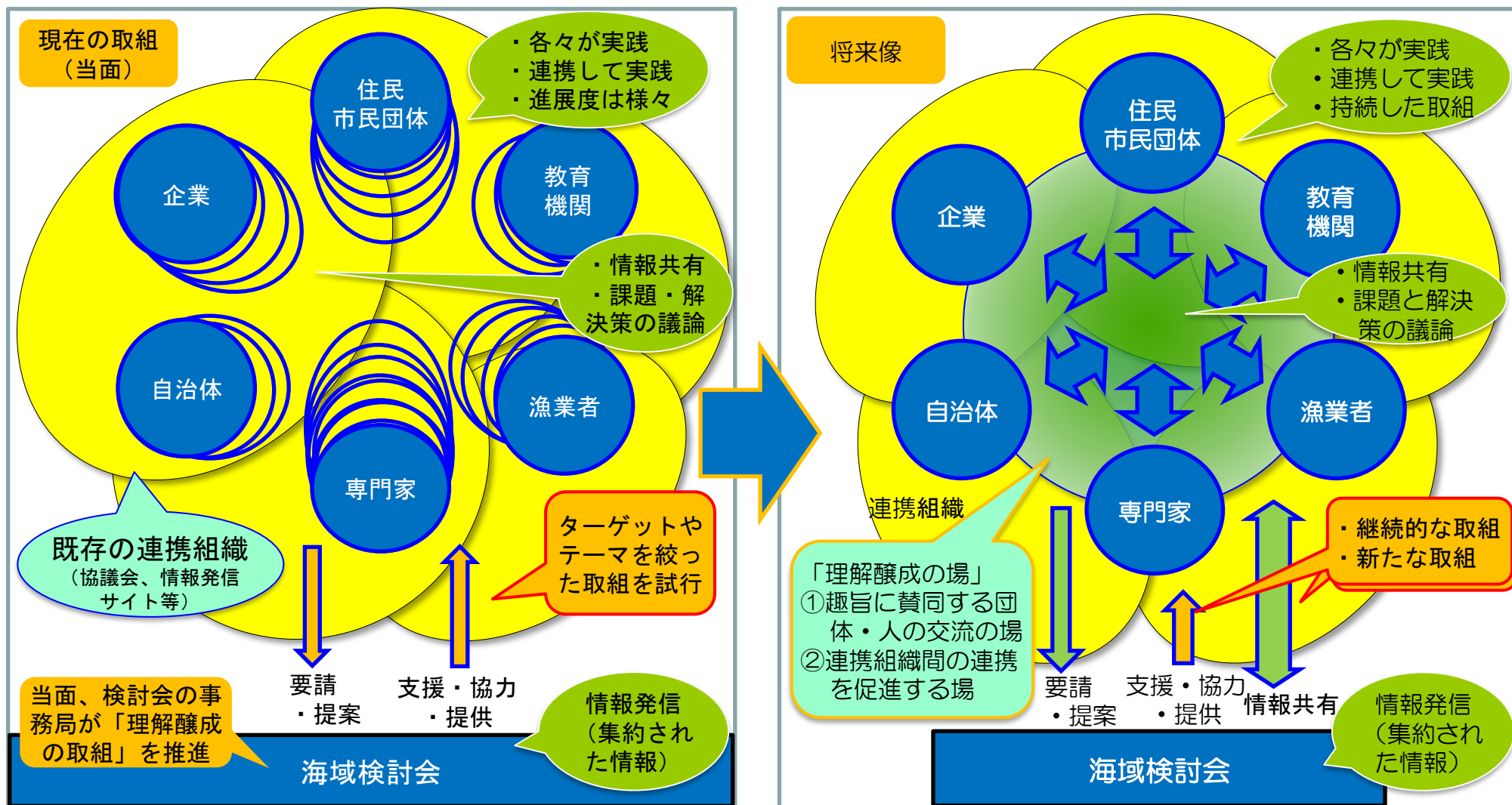


図3 「理解醸成の場」の概念図

- ・伊勢湾における環境活動の拠点等を以下に示し、平成30年度以降実施してきた継続的な取組（環境活動支援、情報発信の発信）の実施個所に●印と令和4年度の実施日を記している。
- ・ブルーカーボンや藻場・干潟の保全・再生活動の支援を想定して、今後連携が必要となる水産試験場等の拠点に○印を記している（右図）。
- ・今後の伊勢湾再生の環境活動推進の検討にあたり、対象や地域に偏りがないように、伊勢湾全体を仮に7エリアに区分分けしている。



図5 伊勢湾における体験・学習拠点等の分布と連携候補（案）

2.継続的な取組の実施状況（検討会事務局による環境活動補助の実践）

①地域協働講座の支援・実施

東海市エコスクール（年2回）

- 1) 春～夏：干潟の生きもの観察
（藤前干潟・稲永センター等）
- 2) 夏：水質調査・乗船体験（名古屋港）



写真1 実施状況(1)
東海市エコスクール

②伊勢湾再生のPR活動の実施

（新型コロナウイルス感染拡大により中止時期有）

1) 環境デーなごやへの出展

- ・令和2、3年会場開催（9月予定）
→中止、WEB開催に変更
- ・令和4年会場開催（9/17実施）
- ・令和5年会場開催（9/16実施）
- ・令和6年会場開催（9/14実施）



写真2 実施状況(2) SDGs スタンブラリーに出展

2) 三河湾大感謝祭への出展

- ・第5回：平成30年10月30日実施（蒲郡市民会館）（伊勢湾再生の取組紹介と環境クイズ）
- ・第6回：令和元年10月21日実施（大浜漁港）
- ・第7回：令和2年予定→中止
- ・第8回：令和3年10月24日実施（海陽ヨットハーバー/蒲郡市）
- ・第9回：令和4年10月9日実施（一色さかな広場/西尾市）
- ・第10回：令和5年10月14日実施（ラグラン/田原市）
- ・第11回：令和6年10月6日実施（西浦温泉パームビーチ/蒲郡市）



三河湾大感謝祭出展
（令和4年10月9日）



パネルの展示、多様な参加賞



缶バッジ、除菌シート

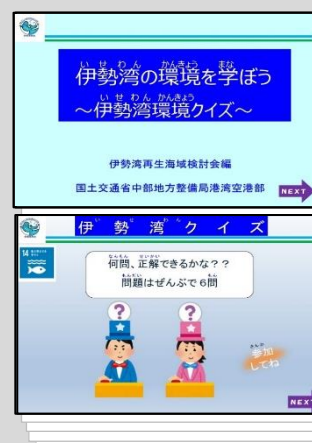
写真3 実施状況(3) 三河湾大感謝祭

③環境活動等の情報収集、新たな取組

9/17豊橋フェア、10/21亀の子隊イベント、11/11鳥羽わいわい祭り、12/6・7建設技津フェア等

④PR資料の作成

海域検討会の取組を紹介する資料、環境学習教材の作成・展示等



伊勢湾環境クイズ
（小学生以上）
自主学習方式



伊勢湾シミュレーターの
検討結果を活用



スマートホン・
タブレット対応



海域検討会の取組紹介資料
（中学生以上～一般向け）

ホームページ等
QRコード紹介

図6 実施状況(4) PR資料の作成

⑤伊勢湾再生の新たなPR活動の実施：シンポジウムの開催

伊勢湾では、生物生息に必要な栄養不足と干潟等の生息場の減少が課題となっており、これらの課題を解決するために産官学連携のもとに進めている伊勢湾再生について、最新の取組状況を紹介し、漁業関係者等の参加者と今後の取組を考えるシンポジウムを開催した。

愛知県におけるブルーカーボンシンポジウム（令和6年2月18日開催）

シンポジウム名：
「海の森」ブルーカーボンで豊かなあいちの海へ

開催日時：2024年2月18日（日）午後
開催場所：名古屋港水族館（名古屋市緑区）
シネマ館およびレクチャールーム

共催：愛知県、国土交通省中部地方整備局
協賛：名古屋港管理組合
協力：（公財）名古屋みなと振興財団
（名古屋港水族館）

参加者（小学生以上）：300人程度

2024年 2月18日 会場：名古屋港水族館 (名古屋港区港町1-3) 参加無料 「ブルーカーボン」シンポジウム ~海の森「ブルーカーボン」で豊かなあいちの海へ~

基調講演：NPO法人SEA 理事長 木村 尚
事例発表：愛知県・伊勢湾・三河湾の環境に関する取組、愛知県による環境の調査、愛知県と伊勢湾・三河湾の環境に関する取組、愛知県と伊勢湾・三河湾の環境に関する取組、愛知県と伊勢湾・三河湾の環境に関する取組

サイトイベント：会場：名古屋港水族館（港町1-3） 時間：11:00-16:30

図7 ブルーカーボンシンポジウムの開催概要

伊勢湾再生シンポジウム（令和4年10月25日開催）

伊勢湾・三河湾の水産資源に必要な栄養や生息場について考える シンポジウム

近年、伊勢湾、三河湾では、海苔の色落ちや漁獲量の減少が生じており、生物に必要な栄養の不足や干潟等の生息場の減少が課題となっています。これらの課題を解決するためには、各組織の枠組みを超えた伊勢湾再生推進体制による相互取り組みが重要となります。

今回のシンポジウムでは、水産資源の回復に向けた栄養塩の在り方や生物生息場の環境について、学識・行政・漁業者等と議論を交わし、近い将来の伊勢湾・三河湾について考えます。

オンライン参加 申込用

日時：令和4年 10月25日（火） 14:00~17:00 (配信開始 13:30)

申し込み：①氏名(ふりがな) ②ご所属 ③メールアドレス をご記入のうえ、下記のアドレス宛に送信してください。

プログラム

主催者：来賓挨拶

基調講演 (30分) 「伊勢湾・三河湾の水産資源の回復に向けた栄養塩の在り方について」 予備結果について 名城大学大学院総合学術研究科 特任教授 中田 喜三郎

話題提供 (40分) 「ブルーカーボン生態系と「ブルークレジット」の取り組みについて」 ジャパンブルーエコミー技術研究組合 理事長 桑江 朝比呂 「海域の基礎生産力の変化による水産資源と生態系の応答について」 愛知県水産試験場 主任研究員 菅根 亮太

パネルディスカッション (80分) コーディネーター：中田喜三郎 名城大学大学院総合学術研究科 特任教授 パネリスト：鈴木輝明 名城大学大学院総合学術研究科 特任教授 青木 伸一 大阪大学大学院工学研究科 教授 桑江 朝比呂 ジャパンブルーエコミー技術研究組合 理事長 菅根 亮太 愛知県水産試験場 場長

お問い合わせ先：中部地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課 平野・梅田 TEL:052-209-6029

主催：国土交通省中部地方整備局・愛知県

伊勢湾再生海域検討会における検討について中田座長より、ブルーカーボンの取組と、伊勢湾の基礎生産力と水産資源、生態系の応答について話題提供を行った。さらに、近い将来の伊勢湾・三河湾について、学識経験者・行政・漁業者等と水産資源の回復に向けた栄養塩の在り方や生物生息場の環境について、パネルディスカッションを行った。来場者からも今後の早急な取組実施を期待する多くの意見、特に、類型指定見直しの要望があった。参加者は総勢290名

図8 伊勢湾再生シンポジウムの開催概要

⑥検討会事務局による継続的な情報収集

(1) 藤前干潟 クリーン大作戦

第39回伊勢湾ゴミ流出防衛最前線!

23秋の 藤前干潟 クリーン大作戦

2023年10月28日(土)

雨天中止
開催可否は、当日の朝6時までに
当実行委員会のホームページにてお知らせします。

協力してキレイにします!

藤前干潟クリーン大作戦とは
以下の3つの目標を掲げて、ラムサール条約登録湿地である「藤前干潟」周辺の漂着ごみを清掃します。この活動は藤前干潟の先の伊勢湾、さらにその先の海へ流れる海ごみを減らすことにもつながります。

3つの目標 /

- ①ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする
- ②子どもたちが安心して遊べる干潟や川を取り戻す
- ③流域全体のごみや水のことを考えるネットワークを形成する

スケジュール
受付：中堤会場・藤前会場は午前9時30分～
清掃活動：午前10時～11時30分頃
順次終了(まとめの会はいきません)
※事前申込不要
※当日、受付シートを提出してください。
※学区会場については、各学区にお問合せください。

会場
藤前干潟・庄内川・新川河口(名古屋港区)にある中堤会場・藤前会場・学区会場

持ち物・服装
参加受付シート(HPから印刷してください)
飲み物・帽子・タオル・軍手・汚れても良い服・運動靴(または長靴)

問合せ先
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会事務局(野村)
TEL: 090-6399-9774 Email: cleanupfujimae@gmail.com
URL: https://cleanupfujimae-1.jimdofree.com/

HPはこちら

河川基金

本取組は「藤前干潟ふれあい事業」の協力事業として実施します。
本取組は「海のみでローワーク」(日本財団・環境省・海沿いのまち共同プロジェクト)に参加します。
※可能でしたら、青いアイテムを身につけてご参加ください。
本取組は公益財団法人河川財団「河川基金」の助成を受けています。

○開催概要

- ・開催日時；令和5年10月28日(土) 10:00～11:30、
- ・開催場所；藤前会場、中堤会場(午後、干潟観察会あり)
- ・当日参加人数；2,008人

図9 藤前干潟クリーン大作戦開催の概要

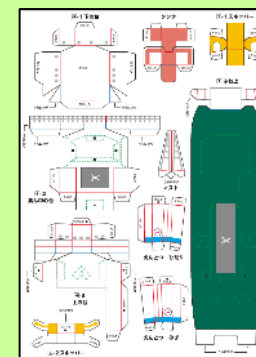
(2) 啓発グッズの検討・製作の協働



●マスキングテープ



●ペーパークラフト



●缶バッジ



●海藻しおり



図10 環境啓発グッズの検討

⑦継続的な取組等の実施から得られた情報の整理と今後の取組への指針

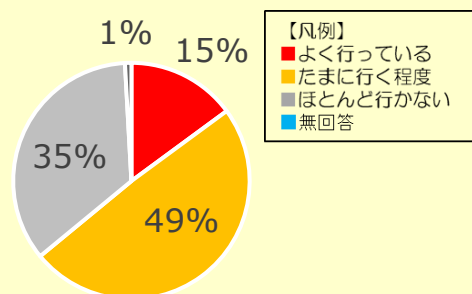
⑦-1) イベント時における一般参加者を対象としたアンケート調査結果の比較

環境デーなごや（9/17開催）、三河湾大感謝祭（10/9開催）、鳥羽わいわい祭り（11/26開催）

環境デーなごや・三河湾大感謝祭・鳥羽わいわい祭りにおけるアンケート調査の結果、回答数の違いはあるものの、来場者の環境問題の認知度や再生活動参加への意欲について、概ね同様の傾向が得られた。

来場者の希望について、体験講座については、いずれも漁業体験や魚食、生き物観察が人気である。座学については、環境デーなごでは海の歴史講座等に特に関心が高く、鳥羽では漁業や海の環境に関心が高いことから、これらのニーズに対応していく必要がある。

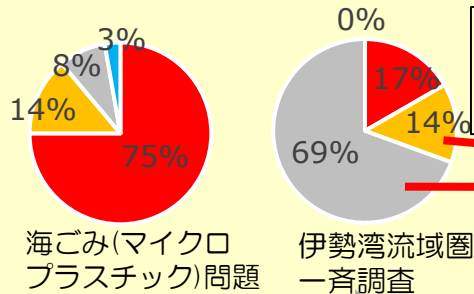
○海との関わり



3か所とも同様の傾向であるが、「海にほとんど行かない」は、環境デーなごやが一番多い

環境デーなごや(他も同様の傾向)

○環境活動に対する認知度



海ごみ(マイクロプラスチック)問題

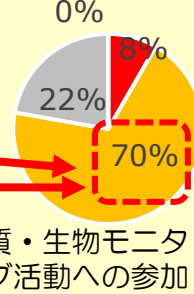
伊勢湾流域圏一斉調査

認知度 **高** **低**

環境問題（特に海ごみ）の認知度は高い。
再生活動の認知度は低い、参加意欲は高い。

鳥羽わいわい祭り(他も同様の傾向)

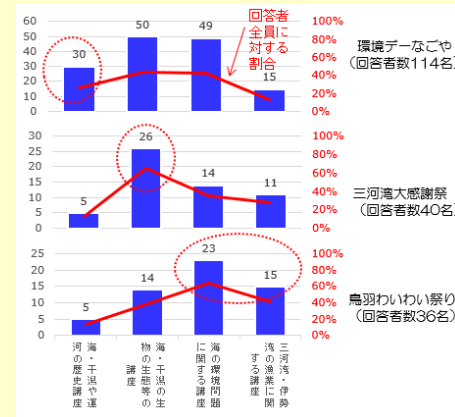
○参加意欲



水質・生物モニタリング活動への参加

【凡例】
 ■ 参加している
 ■ 参加してみたい
 ■ 参加する気はない
 ■ 無回答

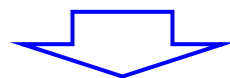
○環境学習（座学講座）への関心



イベントごとに若干、違いがある

図 11イベント時アンケート結果の分析（抜粋）

現状では、再生活動の認知度は相対的に低い、モニタリング調査（伊勢湾流域圏一斉調査）やアマモ場再生活動等への参加意欲は高いため、取組の紹介および、具体的な活動の参加よびかけが効果的である



今後の取組方針として、①一斉調査等のPR ②藻場等の再生活動の取組や拠点の紹介を重点的に推進する